鍋野手漉き和紙工房

手漉き和紙体験



伝統は、ただ守るだけではなく、
未来へ漉いでゆくもの。
あなたの手で、
次の350年を紡いでください。
五感すべてで
“和紙”を感じてください。



開館日：第１・第３日曜日
時間：９:00〜16:00

予約
TEL:0954-66-2555



Google マップ QR⇒



■鍋野手漉和紙保存会
〒849-1412
佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下鍋野

■塩田職人組合
【お問い合わせは嬉野市商工会へ】

■嬉野市商工会（塩田本所）
〒849-1411
佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲 1777-1
TEL:0954-66-2555
Mail:ureshino@sashoren.or.jp

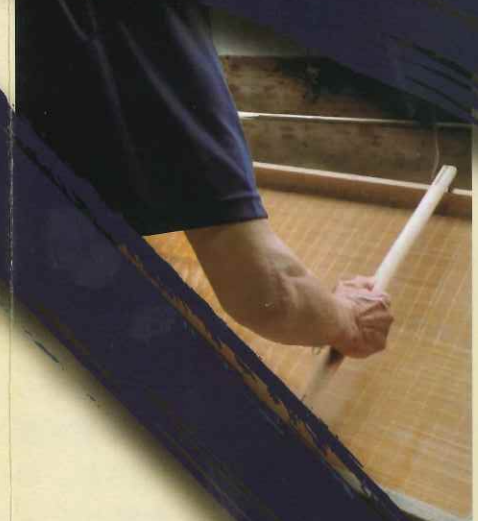
■リーフレットデザイン．印刷作成協力

文化．スポーツ．地域に貢献する
株式会社 トマト企画室
佐賀支店 〒849-2204
佐賀県武雄市北方町大字大崎1794-2 https://iitomato.com

障がい者による 障がい者のための
アート活動
ONEtoONE
https://onetooneart.ivory.ne.jp

鍋野手漉き和紙

NABENO
HANDMADE
WASHI
PAPER



Feel the paper.
The moment when 350 yearsof
Tradition are reborn.

紙を感じて。
350 年の伝統が、よみがえる、その瞬間。

350年山里に息づいた紙。

佐賀県塩田町鍋野。山に抱かれ、水に恵まれ、
人々は楮を育て、紙を漉きました。
鍋野の紙は、時に長崎へ運ばれ、異国の街をも照らしました。
昭和の波に飲まれ、一度は絶えたその技。
しかし、地域の声と職人の想いにより、再び蘇りました。

NABENO
HANDMADE
WASHI
PAPER

鍋野手漉き和紙

佐賀県嬉野市塩田町鍋野地区は、町の西北端武雄境の山に囲まれた盆地で耕地は少ないが、水に恵まれている地域です。

九州地区紙業の開祖といわれる日速宗の高僧・日源氏（筑後の国溝口の人）により、一六五〇年ごろ（江戸時代）紙つくりを習ったと伝えられ、田畑の周囲に育成した楮（コウゾ）を切り取り大き釜で煮立てて皮をはぎきれいな繊維だけで手漉きに、より仕上げていました。

鍋野紙は、ひきが強く障子紙・傘紙・提灯紙として重宝され、大正の初め頃までは、地区の八割約六〇戸が紙すきを競い、主に長崎方面に塩田港から積み出していましたが、昭和に入り機械紙、西洋紙の普及で需要が激減し、昭和三十八年以降途絶えてしまいました。

平成十二年一月「途絶えた地域の伝統産業、手すき和紙の復活」を合言葉に、塩田町商工会と鍋野地区のかつての手すき和紙職人が協力し、商工会の地活性化事業の一環として、鍋野手漉き和紙が三十七年ぶりに復活しました。







太陽をあびて育った楮（こうぞ）
「手前：刈り取り乾燥させている」

この紙は、楮（こうぞ）という木を植えることから始まります。
冬、太陽をあびて育った楮（こうぞ）を刈り取り、大きな釜で蒸しては皮をはぎます。
外側の黒い皮を削ぎ落とし、白い皮だけを残す、その繊維を丁寧に乾かしていきます。
やがて水に戻され、ねり（トロ）を加えてよく混ぜられた繊維。
簀（す）桁を使ってひとすくい、またひとすくい。
水の揺らぎをともなって薄い紙が生まれ、湿紙は重ね合わされて絞られます。
最後に、天日と風にさらされて乾き、一枚の紙となったその時、
それはただの紙ではなく　歴史の息吹がよみがえる、その瞬間。

